令和５年度大学・附属学校園連携事業推進経費　成果報告書

所属名	表現活動教育系
研究課題名	スポーツ選手の梨状筋症候群に起因する腰痛が疑われた症例に対する他動的治療法と自動的運動療法の効果と症状再発に及ぼす因子の検討 － 他動的治療法と自動的運動療法が症状再発に及ぼす影響に着目して－
研究課題概要	［目的］本論文では,スポーツ選手の梨状筋拘縮が伴う腰痛が疑われた症例に対する適切な対処方法の提言を主たる研究目的とした.［方法］被験者は梨状筋拘縮を伴う腰痛のある運動選手とし,他動的施術法(PT)のみを週１回計６回連続で行う PT 群８名と,PT に加えて能動的運動療法（AET）を毎日行う PT+AET 群８名に分けられた．そして各施術前後における梨状筋の弾性率（平均と最大値）,SLR,FABER,及び NRS の 5 項目の測定値を施術前後で比較した.［結果］梨状筋弾性率において，PT 群の１週間後及び５週間後の術前値は実験期間前値と差が認められなかった．PT+AET 群の 2～5 週間後の術前値は実験期間前値より有意に低値（$p<0.05$）を示した．　同様に SLR,FABER,NRS において，PT 群では１週間後及び 5 週間後の術前値は実験期間前値と比べ明らかな改善を示さなかった.しかし，PT+AET 群の 2～3 週間後の術前値は実験期間前値より有意に改善（$p<0.05$）が認められた.［考察・結語］本研究により梨状筋拘縮が伴う腰痛は PT と AET の併用により共に改善する関係が伺われた．梨状筋の弾性率は毎回の術前後，明らかに改善された．また PT のみでは機能・主観的評価ともに実験期間前値に比べ顕著な改善を認めないが，単に PT だけではなく AET を加えることで 2～5 週間程度ではあるが持続的に改善することが明らかになった.
研究課題の構成員（リーダーに※）	橋本　恒（表現活動教育系）※ 武井　浩平（附属天王寺中学校） 柴原　基（しばはら整形スポーツ関節クリニック医院長）